港湾空港タイムス 2016.10.17
（第３種郵便物認可）購読料（税別） １年60,000円　半年32,000円

東京湾再生官民連携フォーラム

⑤ 生き物生息場つくり

生き物生息場つくりＰＴ長　佐々木 淳
（東京大学大学院新領域創成科学研究科教授）

東京湾再生の大目標の一つは新鮮でおいしい魚介類（江戸前と呼ぶ）の再興であり、その実現に向けた政策提案が当ＰＴの主な役割である。様々な努力により東京湾の水質は改善されてきたが、夏季の湾奥中央では相変わらず大規模な貧酸素水塊が発生し、漁獲量は最盛期の十分の一程度と低迷した状態が続いている。その主な原因は埋立によって干潟・浅場の多くが失われ、有機物の除去機能の低下や生き物の多様な生息場が奪われたことにあると考えられる。大部分が港湾区域の東京湾では、港湾部局が環境施策をリードしてきたが、江戸前の再興を前面に打ち出すには、水産部局との連携や漁業者の協力、研究機関の知恵といった、様々なステークホルダーとの協働が不可欠である。当ＰＴではこれらステークホルダーの参画を得て、その実現に貢献すべく活動を展開している。

政策提案に際しては、事業に結実させるため、10年の時間スケールを想定し、同時に東京湾再生の理念の共有を目指すこととした。そこで、最初の政策提案は、（1）生き物生息場つくりの理念、（2）具体的な生き物生息場つくりの提案、の二本立てで臨むこととした。前者では、かつての湿地―干潟―浅場―沖合の連続した景観の再生や、旧海岸線沿いの水路に残る希少在来種の保護、予期せぬ影響の監視の重要性を指摘した。後者の具体案では10年スケールで成果が期待でき、江戸前にふさわしい魚介類は何なのか、生き物の生活史に関する科学的知見に基づき、泥質域を生息場としながら貧酸素水の回避が可能で、小さなボトルネックの解消が有効なものを探った。その結果、マコガレイに白羽の矢が立てられ、そのボトルネックは産卵場の縮小である可能性が、千葉県水産総合研究センターの最新の研究で示唆された。マコガレイは沈性粘着卵であり、海底には砂等の基質が必要だが、産卵期に親魚が集まる北部沿岸は泥質化しており、砂質環境の創生が有効と判断した。合意形成の過程では千葉県漁連の協力を得て、漁業者との意見交換を行い、提案の具体化に資する有益な助言を頂くことができた。

平成27年10月にこの最初の政策提案をとりまとめ、平成28年2月には国と自治体で構成される東京湾再生推進会議に政策提案がなされた。現在は本政策提案の実現に向けたフォローアップや新たな政策提案に向けた活動を始めたところであり、江戸前の再興に一歩でも近づくよう、継続して取り組んでいく所存である。

生き物生息場つくりＰＴ

生き物の生息場を創出するアイディア提案を行います。
東京湾に棲む生き物に注目したら…たくさんの種類が見えてきます。

○生き物の生息に適した場の創出に関するアイディアを提案し、基本的な考え方をとりまとめました。東京湾にはいろんな種類のお魚が棲み着いたり、遊びにきたりしています。ハゼやあなごやカレイなどなど。みんな快適な環境を探しています。
○平成 27 年には生き物生息場つくりの基本的な考え方及び進め方についてと具体的にマコガレイの産卵場を再生するための提案書を提出しました。

葛西海浜公園　東なぎさで実施した干潟観察会
（採取した生物の計測／ 2014年7月12日）

マコガレイ産卵場の底質改善のイメージ